

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ふしぎな出来事をとらえて読み、考えたことを話そう」 教材名「白いぼうし」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（C(1)イ）

不思議だと感じる出来事を、人物の行動と叙述に戻って考える学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ）	①不思議だと感じる出来事を、人物の行動と叙述に戻って考える学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

不思議だと感じる出来事を、人物の行動と叙述に戻って考える。この教材では、不思議な箇所と人物の行動を結ぶ読みの記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

確実に書かれた行動に線を引き、想像は別欄で扱う。複数の読みを本文の根拠で検討する。想定する難しさは、不思議の正体を一つに決めて当てさせる。評価では、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えているかを、不思議な箇所と人物の行動を結ぶ読みの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○気になった場面の叙述を選び、前後の人物の行動と対応させる。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	4～6 （本時）	○気になった場面の叙述を選び、前後の人物の行動と対応させる。本文に書かれていることと想像したことを分け、不思議さについての考えを友達と比べる。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	7	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認して聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導（4／7）

（１）本時の目標

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（Ｃ（１）イ）

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「不思議だと思ったところは、どの言葉と結び付けると説明できますか」 【めあて】不思議だと感じる出来事を、人物の行動と叙述に戻って考える。 〈予想される児童の反応〉 ・前の場面の言葉が後で関係している。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「不思議だと思ったところは、どの言葉と結び付けると説明できますか」 気になった場面の叙述を選び、前後の人物の行動と対応させる。本文に書かれていることと想像したことを分け、不思議さについての考えを友達と比べる。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・前の場面の言葉が後で関係している。 ・断定できないところも残したい。	確実に書かれた行動に線を引き、想像は別欄で扱う。複数の読みを本文の根拠で検討する。 想定する難しさ：不思議の正体を一つに決めて当てさせる。 評価では、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えているかを、不思議な箇所と人物の行動を結ぶ読みの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 不思議な箇所と人物の行動を結ぶ読みの記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・断定できないところも残したい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「不思議だと思ったところは、どの言葉と結び付けると説明できますか」。中央は、不思議な箇所と人物の行動を結ぶ読みの記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

